

平成 27 年度 九州ブロック老人クラブリーダー研修会 開催

平成 27 年 7 月 9 日（木）～10 日（金）の二日間、宮崎県宮崎市の『宮崎観光ホテル』にて九州各県・指定都市より 481 名の参加で、福岡県からは 23 名の参加で開催されました。

台風の心配もありましたが、沖縄県も含めて全ての県・指定都市が参加することができました。



オープニング「レインボーコーラスみやざき」



九州ブロック連絡協議会
宮原会長（福岡県老連会長）



開会セレモニーの後、**全国老人クラブ連合会の斎藤常務理事より基調報告**として、老人クラブとしての運動・行動提案、現在の高齢者を取り巻く社会情勢等の報告がありました。

○老人クラブ「100万人会員増強運動」について
目標達成を出来た都道府県・市町村はなかったが、純増となったところが神戸市だけ。

結果達成とはいかなかったが、増強運動の結果、会員の減少幅がこれまでより歯止めがかかっているの、これは運動の成果である。

○新地域支援事業に向けての行動提案について

介護保険法の改正により、これまで一律であった要支援者に対する訪問介護・通所介護が、市町村が行う新地域支援事業に移行される。老人クラブとしてもこれまで実施してきた“友愛活動” “健康づくり” “介護予防活動”の経験を活かして、市町村が行う地域支援事業の仕組みづくりに参画してほしい。

○よりよいクラブ活動のために

リーダーの基本的な3つの留意点として

(1) 活動の記録保存と継承 (2) 会計の透明性 (3) 会員の安全対策

特に活動と事故は表裏一帯の関係であるため、事故への備えをしてほしい。特に10月より「賠償責任保険」が補助金の対象となったので、是非加入してほしい

その後、3つの研究部会に分かれて研修があり、各県代表の事例発表者（各3名）による発表がありました。

福岡県からは第一研究部会「健康づくり・介護予防活動の推進」の事例発表を宗像市シニアクラブ連合会の甲斐田 武事

務局長さんが代表で『輝きある日々の健康づくりと認知症予防』という題名で発表されました。

ご自身作成のパワーポイント資料で分かり易く説明していただきました。各県毎に特色のある活動もあり、参加者の方から発表に対しての質問や意見など活発に交わされ、有意義分科会となりました。



アトラクション

上小松俵踊り保存会による 「上小松俵踊り」

2日目の開始前に全員で「いきいきクラブ体操」



2 日 目



【 講 演 】

「地域での高齢者の仲間づくりとささえ愛」

宮崎市生目台地区社会福祉協議会 会長

特定非営利法人ささえ愛生目台 理事長

矢方 幸 (やかた みゆき) 氏

介護保険制度が限界となり、市町村による地域包括ケアシステムの導入が今年度より3か年を目処に始まった。現在の「地域」は自治会を含めて色々な団体が構成されているが、横の連携がない。新しい制度を行う上で、まず地域の連携が必須。

○地域で暮らしていくために

人それぞれ、出来ることと出来ないことがある。人の非難は「×」。人への押し付けはダメ。また皆で協力していくた

めには出来ることを提案してあげることも大切。今までの習慣や生き方にこだわらず、人と共存していくことが大切。

○仲間づくり（群れたくない人をどうするのか）

固執した考え方はやめたほうがいい。それが会員増強の邪魔になっている。足並みが揃っていなくても活動出来るゆるさが必要。そうしないと「増強運動」はうまくいかない。

また群れたくない人との関わり方について、一番見守りが必要な人がこの分類の人。そういう部分を理解してあげることが必要。私たちは相手の負担にならないように、自分たちが勝手に見守っている。何かあれば民生委員へ連絡。

人間関係が崩れる前にこれに気づけばいい。

何か得意なものがあるという情報があれば、それを糸がかりにすればいい。

老人クラブは広報ベタ、発信ベタ。その発信したものに興味を持ってくる人がいれば、何に興味があったのか聞くことが大切。活動について「大変！大変！」というのはダメ。

○どうやってあの世に旅立つのか？

エンディングノートを作ることで、家族の話し合いのきっかけとなればと思って作成中。

・若い世代は「親の生きた証（歴史・ルーツ）を聞いておく。これは認知症の治療に効果がある。

・医者は生きつづける医療 → それは本人の意志なのか？

自分が元気なうちに、どうしたいのか発信しておかなくてはいけない。

“ 今できることを今しよう！ ”

生目台地区では身近なところ（徒歩 15 分圏内）に「地域カフェ」を作っている。この活動が安否確認にもなる。

みんなが笑顔でいるため（人とのつながりのツールとして）

食べることの大切さ（せめてお茶とお漬物でもあれば） という思いで作っている。

最後に、高齢者は若い人に負けないことを沢山もっている。今の便利な生活に慣れている子供たちは色々な体験をしていない。色々な体験が生きる知恵になるので、皆に伝えてほしい。

今回の講師の矢方先生のお話は、地域に密着した内容で、老人クラブの一番の基盤である「単位老人クラブ」の活動について、反省する点・参考になる点などなど、興味共感の持てるお話ばかりでした。

実際の老人クラブ活動と地域の団体へも所属する矢方先生のお話は説得力があり、あっという間の 1 時間の講演でした。今後の老人クラブ活動にも役立てていきたいと思えます。

今回研修会に参加の皆さん

